

# LIBRARY INFORMATION



学術情報センターの強化を目指して.....	館長 山口慶四郎.....	2
附属図書館の資料収集活動.....	図書館収書委員会.....	3
猫と本.....	図書館委員会委員長 荒谷次郎.....	9
LA BIBLIOTHEQUE PUBLIQUE D' INFORMATION		
DE PARIS (B.P.I.) .....	フランス語学科 客員教授 ジャン・ノエル・ポーロ .....	10
〈図書展示会について〉 〈お知らせ〉.....		
学術情報センターとの接続完了.....		14
スタイン発見のペルシヤの菩薩.....	歴史学教授 勝藤 猛.....	15

大阪外国語大学附属図書館 1987. 10. 28

# FORMATION

第2号

## 学術情報サービスの強化を目指して

館長 山口 慶四郎

本広報の前号で、「いま図書館が当面している課題のいくつか」に館員一同が完全燃焼して取り組んでいると書いたが、おかげで学内外関係者のご協力もえられ、いずれも順調にその作業が進められている。以下、その主なものについてのべておこう。

まずは『昭和24年以前の旧分類図書の所在点検および電算化（目録作成）事前調査』の昭和61年度の作業をこなし、本62年度も引き続き教育研究学内特別経費の配分、それも前年度の額をはるかに越える配分を受けて、その作業のピッチをあげている。

東京に学術情報センターが設置されたことはすでに周知のところであるが、この7月初旬現在で国立大学附属図書館29館と私立大学のそれ6館とが電算によってこれと接続している。本年中にさらに国立大学附属図書館27館、私立大学附属図書館3館が接続することになっており、このなかに本学図書館も含まれている。間もなくこの接続作業を完了し、全国的な学術情報ネットワークに組みこまれる。

学術情報システムは、人文、社会、自然科学の全分野の学術情報を対象とし、全国の国公立大学の参加のもとに、学術情報センターを中心に、大学の大型計算機センター、情報処理センター、図書館、国立大学共同利用機関などをコンピュータとデータ通信網で結合し、大学等の研究者が必要とする学術情報を迅速に、しかも的確に提供する、全国的、総合的な情報流通システムである。

本学関係者はこのシステムによりおおいに便益を受けることになろう。しかしわれわれも他大学、他機関に便益を提供しなければならないことは言をまたない。前述の2年にわたる教育研究学内特別経費の配布を受けての作業は、そのためにも急がれるのである。

ところで前号で紹介した『地図コーナー』がいよいよこの11月19日にテープ・カットされるこ

とになった。

周知のように本学は外国の言語とそれを基底とする文化一般について、理論と実際にわたって教授研究し、国際的な活動をするために必要な高い教養を与え、言語を通じて外国にかんする理解を深めることを目的として建学された（学則第1条）。この場合、今日のグローバルな時代を思えば、世界の各地域のもつ自然・人文・社会の諸条件を知るもっとも基本的な出発点の一つは読図、つまり地図を読むこととってよからう。

ところが、前号にも書いたように、地図のもつあれこれの特徴により各大学では地図情報を有効に提供することができずにいる。外大図書館はこの困難にあえて挑戦し、所有の地図情報を開架式で最大限に自由閲覧に供しようと考えている次第である。地図（マップ）、地図帳（アトラス）を、それぞれ自然人文にわたり必要とされる事象をとりあげた一般図のみならず、土地利用、気象、人口、言語、文学、歴史、産業、道路等々特定の事象につきさまざまなテーマにわたる主題図を整備しようと構想している。

地図は一般的には現状を表わすもの、つまり最新のものが求められるのが当然だが、資料としては古地図をはじめ過去のものもそれなりに貴重である。地図コーナー開設にあたり、その風格を備えるためにすでに若干の古地図（オリジナル）も購入してあるし、また複製で我慢できるものはそれを手にしている。

コーナーには大小の地球儀も展示する。この7月には大連外語学院から中国語表示の地球儀も寄贈されてきた。日本では珍しい所蔵品といえるだろう。

以上の地図資料はいずれも英仏独西露中の諸言語だけによるのではなく、本学で教授研究するすべての外国語による資料を収集すること、それは困難なことだが、これがわれわれの努力目標である。本学はその主体的条件を備えてい

るのである。

今秋に予定されるこのコーナーの開設時における地図資料の収集量、展示量はもちろん十分なものでないが、これからの充実には期待をよせてもらってよい。

最後になったが、このコーナー開設にあたり基礎になったのは本学旧制第4回卒業の廣岡寅治氏による奨学寄附金であることを一言ご紹介し、氏にあつく感謝の意を表するものである。

ところで、来春3月には図書館の屋上、周辺に4本の大きなパラボラ・アンテナが林立し、日本、米国、ソ連、中国のテレビ放送が受信できるようになる。図書館内や全学科の共同研究室ではもちろん、学生諸君もキャンパス内のいくつかの個所で自由にそれを視聴できるようになるはずである。この件の詳細は、本館が別に発

行する『AVジャーナル』の近刊号に発表されるのでそこに譲るが、「ハングリーを以って貴しとせず」の精神で、今後とも全国大学で視聴覚教育の最先端施設を保有する大学の地位を保持し続ける努力をするものである。

以上のようなことを筆にしていると、現在の図書館の果している機能は、『図書館』なる呼称で十分でないように思えて仕方がない。この7月に開催された全国国立大学図書館協議会の席でもこのことが話題にのぼったものである。最近えた情報によると、国立大学附属図書館26館で、これまで整理課としていたのを情報管理課に、おなじく閲覧課ないし運用課を情報サービス課にと名称変更するという。大学図書館そのものが学術情報館といったふうに名称変更する日が案外と近いかも知れない。



〈海外放送受信装置設置のための事前調査映像—静止衛星ゴリゾントからのソヴィエト放送を受信—テストパターン〉

## 附属図書館の資料収集活動

### 図書館収書委員会

図書館にとって、どんな資料をどのように収集するかという問題は、その機能を左右するといっても過言ではないでしょう。

以下では、図書館の資料収集方針と、収集を担当している収書委員会の活動を紹介します。最後に主な課題をあげて、本学における今後の資料収集の一層の充実を示唆を与えられればと思います。

#### I. 資料収集方針

##### 1. 図書

- (1) 学生用図書を収集の第一義とする。
- (2) 外国語図書より和書に重点をおく。
- (3) 分野は、外国語学(言語学を含む)・外国研究(地域研究)を中心とする。
- (4) 参考図書(辞・事典、書誌、統計、地図など)を重点的に収集する。

(5) その他の図書は、書評などを介して基本的なものを収集する。

本学での資料収集の主体は、図書館と研究室に大別されます。研究室での収集は教官の研究上の資料がほとんどであり、また本学の性格上、洋書が中心です。

大学図書館は、学生のための学習機能をも果たすことが要請されるので、資料面では、図書館の資料収集は、上記の研究室収集の性格と相関的に、(1)の学生用中心、(2)の和書中心という方針が設けられています。

分野については、本学の目的に即して(3)の語学、外国文化研究を最優先し、新刊和書を原則として網羅的に収集します。

参考図書は、研究、学習活動において最も基本となる資料形態です。そのため多くの利用者に共通に利用されることが大いに予測され、また、個人で購入するには高価なものが多く、図書館で重点収集すべき資料タイプといえます。

それ以外の和書、即ち、語学、外国研究以外の和書、そして洋書については出版量は膨大であって収集は選択的にならざるを得ません。これらの選択は一定の基準が必要ですが、内容に即した基準では、現実には実行不可能のため有名無実となり勝ちです。そのため、これらの図書については、書評や文献案内、あるいは引用などによって一定の評価を得たものを収集することにしています。

なお、本学に設けられた一般教育課目や関連科目に即した主題についても、講座物や全集物を中心に基本図書が収集されます。

## 2. 雑誌

### (1) 和雑誌について

図書と同様、語学、外国研究関係の雑誌が最も優先されます。その他では、人文・社会科学の分野を中心に基本的な雑誌が収集されます。

### (2) 外国語雑誌について

各語学科共通に用いられる頻度の高い、言語学雑誌、東洋学雑誌（主に英語で書かれたもの）を収集の中心とし、各語学科について数点の地域研究雑誌を収集します。

## II. 資料収集の現況

### 1. 収書委員会

図書館の資料収集はすべて収書委員会がその任に当たります。収書委員会は、専門員と、図書館の各係から1～2名ずつの計7名の委員で構成されています。

さらに、教授会委員会である図書委員会から2名の教官がオブザーバとして参加しています。委員会は毎月2回開かれます。

### 2. 収書委員会の運営

収集方針に従って次のように進められます。

#### (1) 語学、外国研究和書

出版されたものはなるべく網羅的に購入する方針ですから、『これから出る本』や出版広告など新刊情報を広く通覧し、収集決定します。

#### (2) その他の和書、洋書

基本図書を、日刊紙や書評紙、雑誌の書評欄から選び出します。

#### (3) 学生リクエスト図書

閲覧室のリクエスト・ボックスに投函されたリクエスト図書の採否を、上記方針に従って決定します。即ち、語学、外国研究図書が採用され、その他の分野では書評で評価されたものや本学の教科目上必要なものが優先されます。

#### (4) 見計い図書

図書館と取引のある書店の現物持込本を、収集決定します。検討される見計い図書の点数は通常点数に過ぎませんが、辞・事典の採用が中心となっています。

#### (5) 出版パンフレット

図書館に送られてくる出版広告パンフレット、リーフレットからも収集します。辞・事典などの参考図書が多く採用されます。

## 3. 収集資料の傾向

このような方針と運営によって収集されると、資料費の支出内訳はどのようになるのか、昭和58年度の実績を表1に示してみます。

これをみると、和書が予算全体の半分を、そしてその約62%を語学・外国研究書で占めています。後述するように現在の最新刊出版情報の把握は不十分ですが、現行方式では、ほぼ500万円の新刊の語学・外国研究の和書がほとんど収集できることが分ります。

その他の分野の和書は、約300万円ですが、全

集や講座物を内容とする継続出版物がその50%を超えています。

和書全体の中で参考図書は約 160万円での20%を占めています。

洋書は、参考図書、しかも継続の形をとるタイプがその中心を占めています。一般図書でも、例えばJanua linguarumシリーズなどの継続物がその50%を上廻っています。

雑誌は、和・洋ほぼ同額で、資料費全体の約16.8%となっています。なお62年度外国雑誌の契約にあたって、言語学雑誌を15誌ほど増加させましたが、代りに利用の少い図書館雑誌をほぼ同額分購入打ちりました。

現在の図書館の資料収集活動の特徴を要約すれば、第一に、限られた資料費の枠内で、外大の目的に最も効率的に役立つようにという合目的性、第二に、質がよく生きのよい新刊書をなるべく早くという即時性を挙げるができます。

このような収集活動が大学にどれ程の効果を及ぼしているかという評価はなかなか難しい問題ですが、定量的に可能なものとして図書館で

の貸出冊数がその一つの手がかりを提供します。収書委員会の活動が開始されたのは昭和49年頃ですから、ここ15年間ほどの貸出冊数の推移を表3に、そして60年度の学年別貸出冊数を表2に示してみましよう。

蔵書の内容が貸出冊数を規定する(唯一の要素ではない)ことは明らかですから、15年間の貸出の伸びをみると、図書館の資料収集、そして研究室を含めた外大全体としての資料収集が一定の成果を上げていると言えましよう。

また、学年別貸出冊数が示すように、学年が進むにつれて貸出冊数が増加していること、そして和書の比率がかなり高いことは、図書館の資料収集方針とよく照応しています。

さらに今年度の貸出回数が多い図書を表4に示します。これによって、本学で貸出の多い図書が、語学・外国研究書に集中しており、本学の貸出内容の性格の一端を窺うことができます。

### III. 課題

#### 1. 和書

##### (1) 語学・外国研究分野

##### ①新刊の網羅的収集の徹底

表1 図書館資料費支出内訳 (58年度、単位:千円)

1. 和書	8,039(3,259)
(1) 語学・外国研究分野	4,979(1,692)
① 参考図書	907( 378)
② 一般図書	4,072(1,314)
(2) その他の分野	3,060(1,567)
① 参考図書	696( 453)
② 一般図書	2,364(1,114)
2. 洋書	5,377(3,448)
(1) 参考図書	2,634(2,056)
(2) 一般図書	2,743(1,392)
3. 雑誌	2,780
(1) 和雑誌	1,400
(2) 洋雑誌	1,380
4. 視聴覚資料	386
合計	16,582

表2 学年別貸出冊数

I 部	1年	2年	3年	4年	院生
貸出冊数	3,849	4,767	5,828	8,268	1,879
1人当冊数	6.4	8.1	11.0	14.1	38.3
和書の%	95.1	86.0	85.0	70.9	40.2

II 部	1年	2年	3年	4年	5年
貸出冊数	419	895	1,333	1,157	1,937
1人当冊数	1.7	4.3	6.2	6.2	6.0
和書の%	72.6	87.6	89.9	91.6	82.7

表3

年度別館外貸出冊数(学生)

年度\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	二部	1ヶ月平均
昭和47	789	1,903	1,885	2,084	126	1,511	2,046	2,005	2,248	1,926	2,231	231	18,985	(3,879)	1,582
48	608	1,918	1,834	2,129	147	1,434	2,221	1,790	2,606	1,936	2,535	245	19,403	(3,867)	1,617
49	677	1,816	1,540	1,976	151	1,295	2,005	1,769	2,488	1,860	2,455	324	18,356	(3,659)	1,530
50	789	1,949	1,702	2,283	155	1,214	1,843	1,589	2,494	1,927	2,509	297	18,751	(3,741)	1,563
51	785	2,046	1,596	1,943	141	1,468	1,882	1,871	2,673	1,955	2,627	354	19,341	(3,971)	1,612
52	1,045	2,051	1,898	2,050	132	1,555	1,975	2,024	2,980	2,212	2,596	289	20,807	(3,739)	1,734
53	965	2,100	1,854	2,211	183	1,699	2,004	2,133	3,051	1,985	2,450	305	20,940	(3,456)	1,745
54	1,115	2,100	3,420	—	—	484	2,287	2,245	3,566	2,291	3,615	293	21,416	(3,801)	2,142
55	1,318	2,413	2,064	3,049	283	2,506	2,951	2,373	3,869	2,675	4,061	440	28,002	(6,177)	2,334
56	1,467	2,686	2,526	3,340	212	3,044	3,187	2,429	4,877	2,475	4,655	335	31,233	(7,094)	2,603
57	1,514	2,392	2,585	3,534	425	3,045	3,044	2,600	3,720	2,291	4,490	490	30,130	(6,217)	2,511
58	1,451	2,680	2,257	3,189	359	2,281	2,819	3,100	4,239	2,924	5,017	786	31,102	(7,098)	2,592
59	1,841	3,363	3,127	3,462	569	2,516	3,771	3,868	4,573	3,501	4,191	—	34,782	(6,889)	3,162
60	—	—	3,040	3,828	476	2,546	3,779	3,534	4,543	3,597	5,486	583	31,412	—	3,141
61	1,660	3,034	3,058	3,877	597	3,326	4,224	4,024	5,341	3,791	6,499	1,035	40,466	—	3,372

表4

61年度 学生図書貸出統計表

1987年4月1日 調

区分	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計		
月	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	美術	語学	文学	冊数	人数	開架冊数
4	216	92	174	291	14	15	13	43	330	472	1,660	943	1,313
5	301	179	381	675	47	30	3	76	600	742	3,034	1,820	2,444
6	366	165	361	806	33	18	21	67	537	684	3,058	1,808	2,385
7	313	229	520	873	49	54	38	90	850	861	3,877	1,802	3,088
8	58	47	83	157	21	5	4	12	95	115	597	285	446
9	360	187	439	823	121	43	42	76	584	651	3,326	1,879	2,706
10	375	298	495	917	88	52	29	81	1,025	864	4,224	2,423	3,364
11	412	207	468	995	44	48	37	91	932	790	4,024	2,325	3,117
12	294	296	751	1,391	104	45	55	141	1,093	1,171	5,341	2,684	4,354
1	272	296	572	883	130	37	42	114	709	736	3,791	2,128	3,176
2	424	474	920	1,461	288	57	59	173	1,252	1,391	6,499	3,336	5,751
3	100	41	118	215	14	7	21	25	276	218	1,035	456	854
合計	3,491	2,511	5,282	9,487	953	411	364	989	8,283	8,695	40,466	21,889	32,998

現行では新刊出版情報の把握が十分でないので、使用する情報源の範囲をさらに拡大する必要があります。

②新刊市場で入手可能な資料の適及的収集  
新刊の収集において洩れたものをさかのぼって購入します。

### ③古書の収集

収書委員会の現在の運営は新刊を追いかけることに重点が置かれていますが、より高度な語学・外国研究に対応し、対外的に外大がこの種の資料のセンターとして機能するには、古書の収集も是非必要です。

### (2) その他の教科目の基本図書

語学・外国研究以外の教科目については、閲覧カウンターで特に利用の多いと認められるものは新刊案内から拾っていますが、一般にこれらの基本図書は書評でとりあげられることが少ないため、不備になり勝ちです。これらの教科についても、各教科の研究入門書や雑誌に含まれる文献案内や文献ガイドなどから計画的に収集する必要があります。

### (3) レクリエーション図書

日本の小説や美術、スポーツ、旅行案内、趣味の図書は、予算の都合上後廻しにされ勝ちですが、一定程度の収集を続け、常に鮮度を保つことも図書館の存在理由の一つです。

## 2. 外国資料

外国資料の出版量に比べ、図書館資料費で購入する範囲は極めて限られていますので、多くの問題点が生ずるのは避けられませんが、現在、特に重要と思われる点を挙げてみます。

### (1) 参考図書

外国研究の最も基本的な道具の一つである統計書については、散発的に研究室収集の形でなされているほか、組織的な対応がとられていません。

特に本学の語学科に関係深い諸外国の統計は、最低限代表的なものを整備し、常に更新していくことが必要です。

書誌については、言語学を中心に、政治学、経済学、社会学、文化人類学の年刊形

式の主題別書誌を継続購入していますが、例えば、東洋学の書誌の充実など外大に即した組織的収集が必要でしょう。

### (2) 一般図書

貸出される洋書の内、言語学・語学分野の占める割合が高いことは、例えば、学生リクエスト洋書に占めるこの分野の比率によって裏づけられます。言語学・語学関係の洋書は研究室収集によって相当程度収集されているようですが、リクエスト図書に現れるようにまだ需要に満足のいく対応ができていないのは明白です。

研究者の当面の関心以外のより広い主題について収集すれば、十分利用の見込まれる分野です。

語学以外の外国研究＝地域研究の図書については、研究室購入による語学科単位への細分を補完するため、複数語学科に関連するような図書の収集も必要でしょう。勿論、これらも学生の利用が大いに見込まれる図書に限定します。

### (3) 雑誌

前述のように、言語学・語学雑誌は前年度購入タイトルを増やしましたが、次は、複数語学科に関連する地域研究雑誌、特に東洋学雑誌の充実が望まれます。

本学には学界に誇るに足る東洋学の石浜文庫があり、東洋学関係の重要な雑誌が多く含まれていますが、それらのタイトルを継続・補充していくことも必要です。

また、途中から購入を始めた雑誌について、本学において特に利用の予想されるタイトルはバック・ナンバー購入すべきでしょう。

### (4) 新聞

ロシア語新聞のプラウダ、イズベスチャについては、当館が関西地区の分担保存館の責を負っているため購入・保存しています。その他の新聞については現在全く収集していませんが、学生からのリクエストも多く、その収集の必要は明らかです。

ただ現在、それに代るものとしてWorld Press Archivesを購入しています。世界各国の代表的新聞24紙から、広義の国際政治

に関する記事をコピー・集成したもので、詳細な地域別と主題別のインデックスを備えています。地域研究の第一級の一次資料であると共に、検索装置を完備したすぐれた2次資料でもあります。

しかし、1973年以来、この資料を購入し、利用に供しているわけですが、非常に利用度が低く、今年度限りで打ち切る方針であります。(15年間所蔵)これをもって全面的に新聞の代用とするのは、無理があったわけで、少くとも設置語学科に関係深い新聞をそろえていくべきでしょう。

以上の課題を逐行するため、図書館資料費という枠内で、より適正な配分を再検討する余地が全くないとは申せませんが、中味の配分がいかに効率的になされようと絶対額の不足は明らかでしょう。

少くとも、継続的に購入していくべき、上記の統計や書誌、新聞、雑誌などの資料収集は、恒常的に財源を制約するため資料費自体の少な

り大幅な拡大が不可欠と思われま

す。収書委員会としては、より有効な配分を追求しつつ、年度計画を立て、それら課題を一つずつでも解決していくべきでしょう。

全国的な学術情報システム計画の一次情報収集強化方針に沿って、本学も大型コレクション購入費の配賦を順調に受け、外大らしい蔵書を充実しつつあります。

昨年度より、教育研究特別経費の中で基本図書費が計上され、今後継続されるわけですが、それにより、学生用の基本図書も充実されるでしょう。

また、図書館閲覧室に地図コーナーを設置する構想の実現が開始されたのは喜ばしいことです。

今後、さらに研究室の細分化された収集を越えた、より長期的でマクロな観点からの外大としての蔵書構築、例えば、稀書の収集をも含む、石浜文庫の継承、発展などを図ることが求められていると申せましょう。

表5 図書資料(大型コレクション)年度別購入状況

購入年度	資 料 名	冊 数
昭和54年度	Scandinavica :A Collecton of Standard Periodicals and Many Important Books Dealing with "Scandinavian Folklore and History". 北欧民族学・歴史関係コレクション	551 titles
昭和55年度	Rerum Italicarum Scriptores :A Collecton of Chronicles, Biographies, Diaries, Epics, Statutes and Other Documents, Written Between 500 and 1500 by Italian Authors. イタリア史資料集成 Scrittori d'Italia :A Collection of the Most Important and Classical Works Wirtten by Italian Authors. イタリア著作家図書	
昭和57年度	Russian & Slavic Languages Collectton :A Library of Zentralantiquariat Slavic Division. ロシア・スラブ言語コレクション	1500 vols.
昭和58年度	Indoneslan Collection :A Collection Consists of Books (Being the Majority), Panphlets, Off-prints, Documents, Papers and Reports in the 1940s-1970s. インドネシア現代史政治資料集成	1732 titles 102 vols.
昭和60年度	Languages and Cultures of Arab and Islamic Africa; A Core Collection. アラブ・イスラム・アフリカ言語文化コレクション	1381 titles 1723 vols.



# 猫 と 本

図書委員会委員長 荒谷次郎

これは昔々の話である。1945年3月25日夜、名古屋でのことである。だが、私が生きているかぎり、忘れようとしても忘れられない時間であった。

長いようであっけなかつた猛火が治りかけると、早春の深夜はさすがに肌寒く、寺族七人は焼け残った山門に身をひそめ、無辺にムラがる残り火の海原を眺めていた。眺めていながつたのかも知れない。鬼火が見えていただけであろう。だれもなにも言わなかつた。

ふと気がつくと、猫が膝のうえでぶるぶる震えている。半分以上毛が焼けて失くなつてゐる。寺の境内に現われると、いつも声をかけてかわいがつてゐた近所の三毛猫である。かわいそうに黒毛と焼毛との区別もつかない。目ざとくすばしこいはずなのに。獣のことである。やけどの程度もわからない。なんとか救けてやろう。せめて寒さから守つてやろう。だが、震えはやまない。苦しみもひどくなるばかりだ。

猫嫌いだったのであろうか、横にいた老僧から、離してやれ、の一喝があつた。明治中期から昭和初期にかけて、勤儉ひと筋に貧乏寺を守りたててきた人である。落胆はいちばん大きかつたにちがいない。父の叔父に当るこの先代の和尚は、二月後肺炎で他界した。現住職の里で手厚く待遇されながらである。私にはいつも不機嫌だったが、亡くなる数週間まえはるばる疎開先を訪ねてくれた。彼の郷里の隣村であり、やり手で美人の叔母がいたからであらう。別れるときのこやかな顔と、目にも鮮かな僧衣はいまでも脳裡に焼付いてゐる。

だが、私は怒声を無視した。苦悶する猫が哀れでしかたがなかつた。肌身に伝わる生と死の苦悶、ただこれに熱を注ぎ祈りを捧げた。夜が明けると、猫の命はなかつた。死顔の安らかさだけが、いまでも、唯一の救いである。

まず、危険な不発弾を処理してから、当時としては豪華な朝食を済ませた。ぜんざいもあつ

た。舞鶴の海軍兵学校に入学する兄のために、前夜ささやかな壮行会が開かれたからである。兄は門だけ残つた家から出征した。

先代の住職夫妻も、尾張一宮の近郊に向つた。見舞客がひっきりなしに訪れたが、そのなかに小中両校にわたる同窓生がいた。家庭の幸福しか知らないような、あどけなきの残る顔には、内出血の跡であろうか、暗紫色の斑点が三つ四つある。半キロぐらい離れた友の家は幸い無事だったが、母親が爆死したと声をつまらせた。必死に涙をこらえる友を見て、愚かにも、涙を抑え、涙を隠した。にくき照明弾を思い出した。あの円形の内部は焼夷弾地獄、そこから抜け出そうとした人たちには容赦のない爆弾攻撃があつたのだ。

小学校の同級生で、父親が沖仲仕をしていた朝鮮人の家も、やはり火の海のなかであつた。どうして脱出できたのであろうか、その友は手を振つて笑顔を見せた。その笑顔は、いまでも、生きるよすがである。

空襲警報が発せられるたびことに持出してゐた物がある。それは三段式蓋(ふた)付きの古風な本箱であつた。背丈の高い紫檀塗りの和風本箱に詰めこまれてゐたのは、教科書をはじめ、私なりに厳選したつもりで辞典類と旧制中学用の参考書一式だけであつた。それ以上は収めきれなかつたからである。だが、これだけあればこの先三・四年はなんとか事足りると信じてゐた。

それは山門と庫裡とのあいだの境内の木蔭に出してあつた。炎焼しはじめてから搬出されたミシンは無事であつた。本箱はもちろん無事のはずである。ところが、どこを探してもそれはない。手わけして置場所の近辺を隅なく探してくれたが、それはとうとう見つからなかつた。私は我を忘れて号泣した。そして、焼夷弾を憎んだ。それは防空壕の奥にも直撃して、私たちは危うく難をのがれたところであつた。そこに

置いてあった重要書類も、母が背負っていた御本尊も無事であった。

だが、私の唯一の宝物は消えた。精神の支えが失くなってしまったのだ。

それより五年まえ、長屋住いをしていたころ、妹がキンダーブック、キンダーブックとさげびながら貧困のなかに息絶えた日以来、私は人前で泣いたことはなかった。抑えに抑えていた怒りと悲しみがこみあげた。と、そのとき、命救われた若者が泣いてどうする、の音が響いた。そこには戒玉さんの慈眼があった。戒玉さんは、江戸時代の生れで、すでに百才に近かった。無論私が知りえた最高齢者であり、同じ曹洞宗の庵主様であった。

本堂や庫裡は焼けたが、書院と毘沙門堂は残

った、本ならいくらでもあるからついておいで、とおっしゃってくださいました。そこで、私は、杖がわりに乳母車を押す老尼僧に従った。

書院とは名ばかりで渡り廊下に似ていた。ところが、午後の光を浴びて、そこは金色に輝く御堂の一角のようであった。書院床の下の戸を何枚か開け放って、さあ、好きな本、入用の本を持って行きなさい、と言う。満面にたたえられたそのえみは、生ける仏の顔であった。見れば和本ばかりである。それもほとんどが仏書であった。これら和とじの木版本のなかから、私は、山家集、徒然草、奥の細道をいただいて帰った。

春の柔かい日射しが一瞬戦争を忘れさせるひとときであった。(イタリア語学科教授)

## LA BIBLIOTHEQUE PUBLIQUE D'INFORMATION DE PARIS (B.P.I.)

フランス語学科客員教授 ジャン・ノエル・ボーロ

1. 1977年1月31日、首都中心部に開設され、その古い地区名“ボープール”の名で通っているジョルジュ・ポンピドー・センターは、今年開館十周年記念を祝った。美的にも、技術的にも、奇抜で大胆な近代的コンセプトをもって、レンツォ・ピアノ(伊)、リチャード・ロジャーズ(英)という、このために開催されたコンクールで勝冠を手にした二建築家の設計によって建造されたこのセンターは、公共情報図書館(B.P.I.)、国立近代美術館、産業創造センター(C.C.I.)、音楽研究所(IR.C.A.M.)という四つの活動セクターを一堂に集めている。
2. ポンピドー・センターの数ある魅力のうち最大の成功を納めているのは、おそらくB.P.I.であろう。1日4,000人の利用者を受入れるよう準備されていたところ、主要コーナーには10,000人近く、週末には15,000人、加えて定期刊行物コーナーに3,000人の来館者を迎えている。開館当初から変らぬ人気は、B.P.I.がフランスにおいてこれまでになく、他では見られない特徴をもつということから説明さ

れる。従来のフランス公共図書館には二つのタイプがある。一般に公立で、どちらかというところと娯楽本を中心とする貸出用図書館と、蔵書閲覧を研究者にしばった国立図書館のような研究用図書館である。これらに加えて、主として学生のための大学図書館がある。しくみはどのタイプの図書館も同じで、登録、場合によっては登録料払込、閲覧・貸出票記入を要する。百科事典的情報図書館として考案され、無料・無手続で万人に開かれたB.P.I.は、この類ではフランス初、アングロ・サクソン、スカンジナビア諸国にしか匹敵するものをもたないが、その性質がら貸出はないものの、ビデオ・カセットを除く全資料を係を介さず各人が自由に利用できるよう開架に並べられている。

3. ポンピドー・センターの三階分を占めるB.P.I.は、1980年には既に、文学、法律、美術、音楽、科学、技術とあらゆる分野に関する90万点の資料を提供しており、その内訳は以下のようになっている。図書(350,000)、定期刊行物(2,750)、マイクロフィルム(15,000)、マ

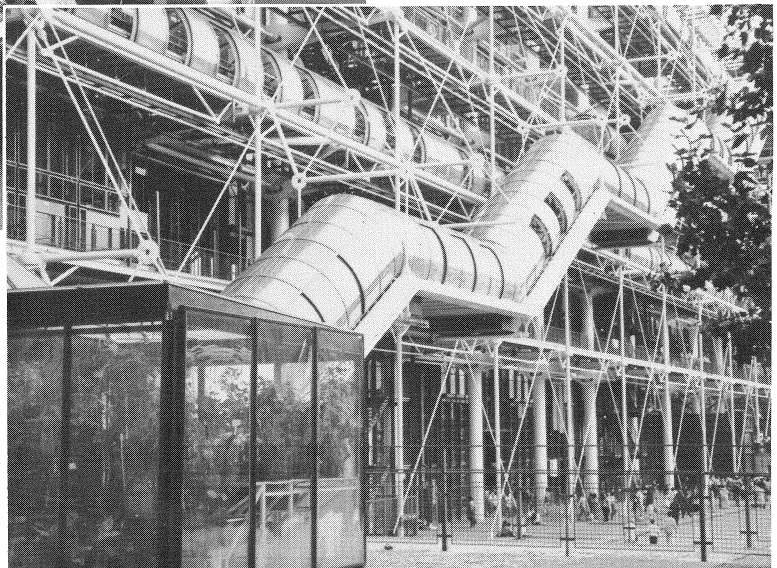
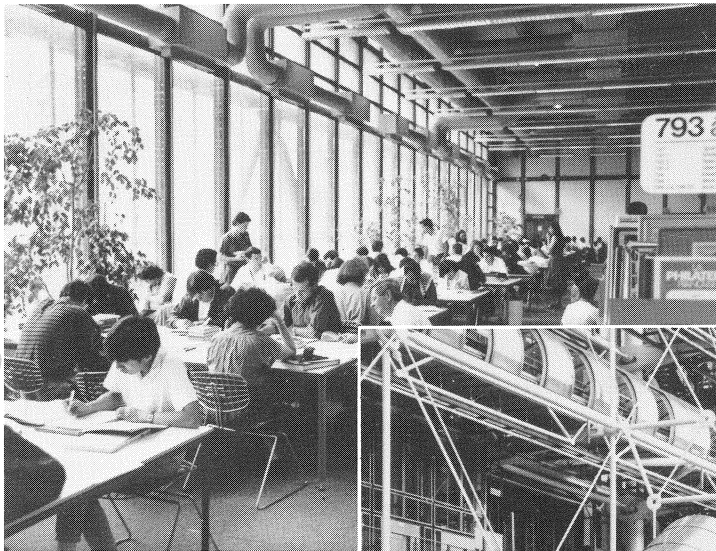
マイクロフィッシュ(52,000)、スライド(475,000)、ビデオ・カセット(3,000)、地図(2,500)[カッコ内件数]。BPIは視聴覚設備にも重きを置き、印刷物と同額の予算を注ぎ込んでいる。この図書館は保存や高度に専門化された研究のためのものではなく、その獨創性は集められた資料の今日性、および多岐にわたる守備範囲の広さにある。かくしてBPIは、そのコレクションを更新し、もはや要請に答えなくなった資料、特に経済、社会、都市に関するものを削除し、毎年約40,000点の資料を購入している。

4. 資料は全て、大半の図書館の採用している国際十進分類法に従って、資料形態別ではなく、分類別と同じ書架に集めて配置されている。そのおかげで、勝手に利用することになっている利用者は、同主題に関して、一つの場所で、印刷物とその横に並ぶスライド、マイクロフィルム、マイクロフィッシュあるいはビデオ・カセットのレファランス・カード

ボックスをみることができる。ビデオ・カセットについては、係員に申出ることになり、係員がレコーターの操作をうけもっている。コンピューターで編集された数種のカタログは、受付および各コーナーのカウンターの傍に配置されている。種類としては、著者・書名別総合編、項目別総合編、整理番号編、定期刊行物編(書名・著者別)がある。

5. BPIの受付はセンターの2階にあり、来館者に情報提供と案内を行っている。同階には書誌学関係、百科事典、辞書、年報、最近の新聞・雑誌を集めた総合参考資料セクションがある。

同セクションはまた、35mmマイクロフィルムに収めた古い定期刊行物の膨大なコレクションを有し、中には18世紀末のものもある。例えば、Le Journal des Debats(1789—1944)、Figaro (1854—1974)、L'Humanite (1904—1974)等があげられる。さらに、同階のイコノグラフィー・コーナーには、諸閲覧コーナー



にあるスライド(20,000万点以上)の複製がテーマ別に集められている。これらのスライドは一つ一つの図についてのコメント目録冊子とあわせてこの階で見ることができる。このコーナーは加えて、これらに関するあらゆる情報を提供することもできる。センター1階では、哲学、宗教、芸術、娯楽、スポーツ、言語、および文学に関する文献が閲覧でき、同分野に関するスライド、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、ビデオ・カセットを備え付けの装置で見られる。音楽コーナーには録音物コレクションがあり、ハイファイ・リスニングブース40席が設置されている。さらに、言語コーナーは〈メディアテック〉とよばれる50ブースのLLを有し、オーディオ・オーラルやオーディオ・ビジュアル方式(約300方式)で、69言語を学習することができる。センター3階には1階と同じような大閲覧室

があり、社会科学、自然科学、技術、歴史、地理のセクションが配置されている。各階間は、屋内エスカレーターでつながっていて、出口は入口と同じ所に設けられている。

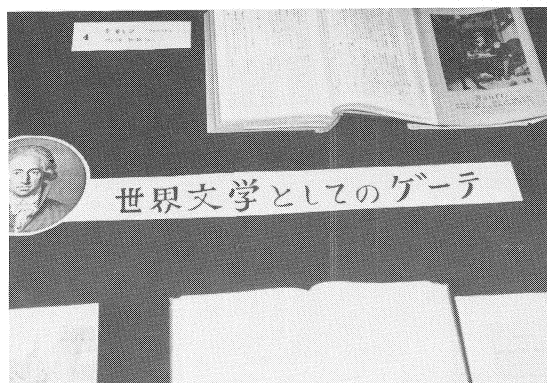
6. これとは独立して、センター1階には新着コーナーがあり、そこには新着図書、レコード、国内外の新聞・雑誌(250種)が並んでいる。同じく別個になった児童図書館では、図書30,000冊、スライド12,000枚、レコード1,500枚、ビデオ・カセット150点が用意され、子供たちを待っている。

BIPはフランスにおいてその独創的コンセプトのため、開設以来、利用者が自由に閲覧できること、分野が多岐に渡っていること、視聴覚設備が整っていること、などによって大好評を博し、学生の間では、参考図書が豊富にそろっていると高く評価される。

## 《図書展示会について》

昨年より、附属図書館では、所蔵図書の展観を企画し、現在まで3回開催しています。

- 第1回 昭和61年11月14日～20日  
『オーレル・スタインと石濱純太郎』
- 第2回 昭和61年12月8日～13日  
『魯迅没後50周年記念』
- 第3回 昭和62年6月9日～20日  
『世界文学としてのゲーテ』



第4回は、10月29日に第9回大阪外国語大学学術講演会(石濱文庫記念)が開催されるのに併せて、下記のとおり実施します。

- 第4回 昭和62年10月27日～11月2日  
『石濱文庫言語学関係貴重図書』(予定)

第5回については、11月19日に、下記〈お知らせ〉のとおり、「地図コーナー(廣岡記念)」が開設されますので、それと併せて実施するものです。

- 第5回 昭和62年11月19日～30日  
『本学図書館所蔵地図資料』(予定)

## 〈お知らせ〉

### 大阪外国語大学附属図書館「地図コーナー(廣岡記念)」 開設記念講演会の開催について

下記のとおり、大阪外国語大学附属図書館「地図コーナー(廣岡記念)」開設記念講演会を催しますので、ご来場をお待ちしております。

#### 記

1. 日 時：昭和62年11月19日(木) 午後2時～4時
2. 場 所：大阪外国語大学附属図書館視聴覚ホール(図書館棟4階)
3. 講 演：『絵地図について』

大阪大学教授 矢 守 一 彦

4. 展示会：当日、「地図コーナー」及び図書館閲覧室で、地図資料の展示を行っています。
5. その他：入場は無料です。

#### \*講演要旨

〈絵地図について〉

世界の諸地域において、地図史の黎明期には、しばしば絵画的な表現が採られたが、一方、カルトグラフィの進歩した時代になっても、人びとは好んで絵地図を用いている。同じくラントシャフト(地域・景観)を描く風景画と地図との狭間にある問題点を、内外の都市図を中心に検討する。(一部、スライド使用)

#### \*講師について

矢 守 一 彦

大阪大学教授(文学部)附属図書館長、文学博士、専攻は比較文化学・歴史地理学で、『都市図の歴史(日本編)、(世界編)』『古地図と風景』などの多数の著作があり、朝日百科『日本の歴史』の近著で知られる。

#### \*地図コーナー(廣岡記念)の開設について

本学ロシア語学科卒業生である廣岡寅治氏の奨学寄付金により購入した地図資料を中心に約450点の古地図・アトラス等を収集・展示している。

附属図書館3階ロビーを一部改造し、「地図コーナー」・閲覧室として拡張し、学生・教員が地図資料を自由に活用・研究できる場とすることで、本学の特色としての外国研究の一層の発展を期待するものである。

# 学術情報センターとの接続完了

今年10月20日、学術情報サービスの強化を計るべく本学図書館と学術情報センターとの接続が無事完了した。接続形態はNTTのDDX第一種パケット交換を介してのVTSS方式である。

学術情報センターは、学術情報を迅速かつ確に提供するための中枢機関として1986年に東京大学文献情報センターが改組され発足、設立された。59年度には本学は学術情報ネットワークの一翼として電算化にふみきり現在に至っている。ところで、62年9月末では、学術情報センターと接続を完了し、目録所在情報サービスの利用を開始している機関は私立を含め41大学になっている。

学術情報センターの事業内容は、全国の大学図書館等の協力を基に各々の図書館が所蔵する図書及び雑誌の有効利用するための目録所在情報サービスを構築することである。

そして、本年4月より大学等の研究者の学術研究活動を支援するための情報検索サービス(NACISIS-IR)が開始された。当面のサービスは、自然科学系の抄録等の文献情報データベース(図1)のオンライン検索サービスが主体になるようである。

本学図書館においても情報検索サービス利用の申請をするつもりであるが、利用料金、通信経費等の問題がありその方法について現在検討中である。

図1 サービス・データベース

	データベース名	DB呼び出しコマンド	データ件数*	更新頻度	データベースの内容及び作成機関
二次情報データベース	Life Sciences Collection	LIFE	20万件 1985以降	月次	生命科学分野の二次情報DB(抄録付き)。* 米国Cambridge Scientific Abstracts社作成。
	MathSci	MATH	8万件 1985以降	月次	Mathematical Reviews 誌に対応する数学分野の二次情報DB(抄録付き)。米国数学会作成。
	COMPENDEX	ENG	55万件 1981以降	月次	Engineering Index誌に対応する工学分野の二次情報DB(抄録付き)。米国Engineering Information社作成。
	Ei Engineering Meetings	EIM	20万件 1985以降	月次	The Engineering Conference Index誌に対応する工学分野の会議録論文の二次情報DB(抄録付き)。米国Engineering Information社作成。
	Harvard Business Review	HBR	250件 1985以降	2ヶ月	Harvard Business Review誌の全文DB。 米国John Wiley & Sons社作成。
	ISTP & B	ISTP	20万件 1985以降	月次	Index to Scientific & Technical Proceedings 誌に対応する科学技術分野の会議録等論文の二次情報DB。米国Institute for Scientific Information社作成。
	科学研究費補助金研究成果概要データベース	KAKEN	2,800件 1985	年次	文部省の科学研究費補助金により行われた研究の研究成果報告概要のDB(抄録付き)。学術情報センター作成。
	学位論文索引データベース	GAKUI	5,000件 1985	—	我が国の大学で授与される博士学位論文の索引DB。 学術情報センター作成。
MARCデータベース	JPMARC	JPM	15万件 1985以降	週次	日本国内で発行された図書の書誌情報DB。 国立国会図書館作成。
	LCMARC(Books)	LCMB	40万件 1985以降	月次	主として米国で発行された図書の書誌情報DB。 米国議会図書館作成。
	LCMARC(Serials)	LCMS	30万件 1985以降	3ヶ月	欧文雑誌の書誌情報DB。 米国議会図書館作成。
目録所在情報データベース	目録所在情報データベース(和雑誌)	JSCAT	雑誌 4万件 所蔵 100万件	—	我が国の大学図書館等に所蔵される和文の学術雑誌総合目録DB。 学術情報センター作成。
	目録所在情報データベース(洋雑誌)	FSCAT 又はULP	雑誌 9万件 所蔵 62万件	—	我が国の大学図書館等に所蔵される欧文の学術雑誌総合目録DB。 学術情報センター作成。

\* 昭和62年4月当初の予定。データの収録範囲は、バックファイルの導入によって拡大する予定である。

\*\* 対応する抄録誌: Animal Behavior Abstracts, Biochemistry Abstracts, Biotechnology Research Abstracts, Calcified Tissue Abstracts, Chemoreception Abstracts, Ecology Abstracts, Endocrinology Abstracts, Entomology Abstracts, Genetic Abstracts, Immunology Abstracts, Microbiology Abstracts, CSA Neurosciences Abstracts, Toxicology Abstracts, Virology Abstracts

## スタイン発見のペルシア的菩薩

歴史学教授 勝 藤 猛

1900年、考古学探検家Aurel Stein (1862-1944)は、インドを出発して、清朝領下の新疆省へ入った。厳密にいうと、彼はこの時はハンガリー人であり、イギリス国籍を得たのは1904年である。砂漠の中のDandan-oilik というところで彼は仏教遺跡を発見した。

出土品のひとつに、奇妙な絵があった。縦横33cm×20cmの木の板の両面に人物像が描かれている。

一面は勇ましい男性像で、体形・服装ともにまったくペルシア風であるが、頭光と身光に包まれているから、仏教の菩薩像である。顔の形は面長で、色は赤く、濃いあごひげを生やしている。こういう容貌は仏教尊像には見られない。頭には長い黒髪を束ね、ササン朝の帝王のように金色の高い冠をかぶっている。腰は細く、これは伝統的なペルシア美男子の体型である。上着は金襴の縫いとりがついており、脚には黒い長靴をはいている。腰には少し曲った短剣を下げている。スカーフが首から垂れて腕に巻いているのは、中央アジアの菩薩像と同様である。腕は左右各2本で、その3本が物を持っており、うち2つははっきりして、酒杯と槍先で、ともに仏具ではない。もう1つ、上の右手の持ち物がはっきりしない。細長い柄はわかるが、その先が消えて見えない。

板の反対面は、3つの頭をもつ悪魔風の人物像で、これは明らかにインド的である。すなわち肌色は青黒く、裸で、腰に虎の皮を付けているだけである。うずくまった2頭の牛の上に坐っている。手はこれも4本で、その持ち物はタントラ聖典の尊像のものと類似している。

ペルシア風菩薩とインド風悪魔がなぜ1枚の板の裏表に描かれているのか、スタインはこれを発見した時にはそれが理解できなかった。

それから15年後、彼の3度目の新疆省考古学調査の帰途、ロシアを通してペルシアに入り、その国の東南隅にあるKoh-i-Khwaja の遺跡を

調査した。そこに壁画があってFirdawsi, Shah-nama (叙事詩)の主人公Rustamを描いてある。その右手には柄が少し曲った鉄槌gurzを持っている。ダンダン=オイリクのペルシア的菩薩の右手の持ち物も同じものにちがいない。またこの壁画では、ルスタムに向かって、三面の悪魔がうやうやしく両手で貢ぎ物を捧げている。

スタインの謎はここでやっと解けた。かの新疆出土のパネルの両面は、ペルシアの英雄ルスタムと、彼が降伏させた悪魔であり、それが仏画として仏教寺院を飾っていたのである。以上の話は Aurel Stein, On Ancient Central-Asian Tracks, 1933, 1964に見える。

ダンダン=オイリクの板絵は、スタインの公式報告書Ancient Khotan, vol. II, 1907と、『西域美術 大英博物館スタイン・コレクション』、講談社、3、No70に出ている。本学図書館では、前者は石浜文庫(貴重書庫)に、後者は3階開架図書室壁面の大型書架にある。

この書架にはまた『世界の美術館』講談社、全24巻があって、有益である。世界の有名美術館のある町へ行っても、そこへ行く機会がなかったり、ゆっくり見る時間がなかったり、またはその時は陳列されていなかったりする。この書架から我々は有名美術館の代表的作品を十分に楽しむことができる。

スタイン将来のペルシア的菩薩は、このシリーズの『大英博物館』I, Nos. 112, 113(ただし白黒)にも出ている。

『ニューデリー美術館』にも、スタインの中央アジア探検とその将来品についての、図版と解説が載っている。私は1959年にここへ行ったが展示品についての定かな記憶はない。ただスタインが大きな壁画をらくだに載せるためにいくつか切ってインドへ運び、陳列の際にしっくりつなぎ合わせたものだけをおぼえている。

また『ギメ東洋美術館』の本で、なつかしいものに再会した。そこは1981年に訪れ、日本人

留学生と一緒に、インドのミニアチュールに書いてあるペルシア詩を読解しようと努力した。その際に陳列されていなかったものがこの本に載っている。それはアフガニスタンのカーブル盆地北部にあるベグラムという遺跡からの出土品で、フランスの考古学者が長年にわたって発掘し、一部をカーブル博物館に残し、一部を持ち帰ったものである。私は59年から2年間、アフガニスタンに留学し、カーブル唯一の文化施設である博物館へ行くのを楽しみにしていた。陳列品とともに、この南郊外のさわやかな風景と、近くの茶店で焼くパンの匂いとが結びついている。ベグラムの地は、7世紀に唐の玄奘がインドへの途中に通った時は「カピシ国」といい、「異方の奇貨、多く此の国に聚まる」と、彼は大唐西域記に書いている。「異方の奇貨」とは、ギリシア風彫刻、インドの象牙細工、中国漢代の漆器などである。

カーブル博物館所蔵品は日本にも紹介され、「アフガニスタン古代美術展」が1963年に大阪と東京で開催された。私は、開設（61年）後まもないペルシア語学科の学生を連れて見に行った。この美術展のカタログやギメの図録に見られるガンダーラ仏像やギリシア人胸像は、時おり伝えられる現在のアフガニスタン情勢とは、あまりにもかけ離れている。

ともあれ我々は幸福なことに、図書館3階の



書架から、世界各地の文化遺産を、安全に自由に鑑賞することができる。それとともに多大の危険と困難を冒して探検収集してくれた先人の偉業に敬意を表するのである。

## 編集後記

◆ 今号では、収書委員会の資料収集活動について特集しましたが、蔵書の内容が貸出冊数を規定することは明白と言えますが、貸出の伸びについては、他の要因（学生数の増加等）をも詳しく分析していく必要があります。今後、利用率・指数等も加味しながら検証していきたいと考えています。

◆ 今回の学術情報センターとの接続によつ

て、本学における図書館業務（書誌情報及び書誌所在情報）のより一層のサービスが提供できるものと考えています。

◆ 表紙の写真は、石浜文庫の貴重図書「Ancient Khotan vol. II」の中から、ダンタン=オイリクの板絵写真を印刷したものである。

◆ 次号の発行は3月の予定。多くの方々の寄稿、御意見をお待ちしています。

(H.K)

## LIBRARY INFORMATION

— 第 2 号 — 1987年10月28日

編集発行 大阪外国語大学附属図書館

印刷 ユニワールド印刷センター